

会社連絡先:

RF Micro Devices Inc.
Irma Swain, Communications Manager
7628 Thorndike Road
Greensboro, NC 27409-9421, USA
電話: +1 (336) 931-6653
iswain@rfmd.com

**RFMD 社が MEMS 技術を導入
RF システムなどで画期的な性能と高度な機能統合を可能に**

ニューヨーク州ニューヨーク、2007 年 11 月 21 日:高性能 RF システム/ソリューションの設計、製造で世界をリードする RFMD 社(ナスダック GS:RFMD)は、本日開催された同社のアナリストデーの席上、RF その他の用途に活用できる独自の微小電気機械システム(MEMS)技術の導入について明らかにした。RFMD 社はローコスト統合 RF アプリケーション用 MEMS 技術(RF MEMS)のパイオニアで、MEMS 技術の商品化には 2004 年から積極的に取り組んできた。RFMD 社では、自社独自の MEMS 技術により、RF 系やその他の用途で画期的な性能向上と機能統合が可能になると考えている。

同社が最初に市場に投入する MEMS デバイスは 3G マルチモード端末用の RF MEMS 送受信スイッチと RF MEMS モードスイッチになる予定。同社の MEMS スイッチ技術は部品の大幅な小型化と効率向上を通じて通話時間の長時間化が図れるため、3G の展開を加速する。RF MEMS スイッチ技術と、RFMD 社が業界をリードするフロントエンドソリューション(GaAs、SOI、シリコン)用プロセス技術の組み合わせは、ローコスト、小型で超高性能なフロントエンドに新たな標準を確立する。

この MEMS スイッチをパワーアンプ(PA)の出力回路に応用すれば同調機能付きの PA が可能になるため、真に適応性のある送信機ソリューションが実現可能になると期待される。

「独自の MEMS 技術の商品化と、R&D 用 200 mm MEMS ウェーハ工場の建設は、最先端の技術革新で常に製品のリーダーシップをとり続けてきた当社の姿勢を明確に示しています。RFMD 社は、アナログ・デジタル混在 CMOS、電源管理、パワーアンプ、RF スイッチ、RF MEMS を経済的なウェーハレベルのシングルチップ・ソリューションとして提供できる唯一の会社です。業界をリードする MEMS 機能の商品化により、ますます進化する RF への要求に応え、期待を上回る高度に統合された RF ソリューションを提供できるようになります。」と RFMD 社の研究開発担当副社長ビクター・スチールは言う。

MEMS 開発初期のパイオニアであるカリフォルニア大学サンディエゴ校のガブリエル・M・レバイズ教授の補足説明によれば、「これまでの RF MEMS スイッチ技術は少量の組立ロットと、ウェーハからウェーハへと移すパッケージング技術がベースだったため、デバイスのコストが高くなる傾向がありました。RFMD 社のアプローチはシリコン上への高度なインテグレーション技術を使ってこの問題に正面から取り組むもので、歩留まりの向上や高性能化、ローコスト化が可能になります。」

RFMD 社の RF MEMS スイッチは大電力のオーミック接触による MEMS スイッチで、RF CMOS SOI ウェーハ上、IC の上に後処理で構築され、ウェーハ・レベル・ハーメチックシール・パッケージ(WLP)による誘電体のドームで覆われる構造になっている。RF MEMS スイッチの動作に必要な回路は、電力用 MEMS スイッチの安定動作に必要な高電圧や制御信号の発生も含め、すべて CMOS ベース上に集積されている。この RF MEMS スイッチは、低損失／高アイソレーション(標準 0.2dB／35dB@1.9GHz)、高い高調波除去比(標準 90dBc 以上)といった携帯端末用 RF パワーモジュールに対する RFMD 社の厳格な要件をすべて満足するほか、信頼性や設計／生産に要する費用などに関する厳しい要件も満足する。

RFMD 社では RF MEMS スイッチ以外の MEMS デバイスの商品化も積極的に進めており、これには RF MEMS フィルタ、RF MEMS 共振子(水晶振動子の置き換え)、MEMS センサーなどがある。同社が持つ高性能 RF システムの中核技術と MEMS 技術とを組み合わせることにより、最終的にはシングルチップのフロントエンドや、携帯電話やそれ以外のあらゆる無線プロトコルに対応可能なソフトウェア無線機が可能になると期待されている。

RFMD 社が継続的な MEMS 開発をサポートするために建設を予定している R&D 用の 200mm ウェーハ工場は、GaN R&D 組織と共にノースカロライナ州モーズビルの新施設に設置される。

RFMD 社について:RF マイクロデバイセス社(NASDAQ GS RFMD)は、無線通信／ブロードバンド通信駆動用各種アプリケーション向けの高性能無線システム／ソリューションを設計、製造する業界リーダー。RFMD 社の携帯電話用フロントエンド、携帯電話用トランシーバ、システムオンチップ(SOC)ソリューションは携帯端末、携帯電話基地局、無線 LAN(WLAN)、CATV ネットワーク、航空宇宙、防衛、GPS 等の市場で活用され、その最先端の機能をサポートして通信能力を強化し、世界全体のモビリティを向上させている。幅広い分野の最新半導体技術と RF システムの専門技術で知られる RFMD 社は、移動通信機器や RF システムを手がける世界中の一流メーカーから最も信頼されている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置く RFMD 社は ISO 9001 および ISO 14001 の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD 社は RFMD 銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報は RFMD 社のホームページ、www.rfmd.com に紹介されている。

「将来的な予測」の記述について

このプレス・リリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act)がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした内容とは実質的に異なる場合もあります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイセス社の事業には多くのリスクや不確実性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェーハ製造施設、分子線エビタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリスク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投

入する能力、顧客の在庫センターを通して行う委託販売への依存性、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外も含むこれらリスクや不確定性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確定性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES® および RFMD®は RFMD, LLC の商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。

###